

大人の虫歯

「虫歯」は、甘いお菓子やジュースが好きな子供の病気というイメージがありますが、最近では予防歯科の考えの普及や親御さんの努力もあって、むしろ子供の虫歯は減少しています。逆に「大人の虫歯」は増えているというデータがあるのです。なぜでしょう？あなたの歯は大丈夫ですか？

★大人特有の虫歯とは？

子供の場合は、健康な歯の表面のエナメル質や、歯と歯の間に虫歯ができることが多いのですが、大人の場合は、治療済みの歯や、歯と歯ぐきの境目が特に虫歯になりやすい危険ゾーンです。

★治療済みの歯

以前虫歯になって通院し、レジンの詰め物や金属の被せ物をして治療が済んだあなたの歯。治ったからもう安心…いいえ、そんなことはありません。詰め物も被せ物も一生ものではありません。耐用年数はその人のお口の中の状態や毎日のお手入れの仕方によって違いますが、残念ながら寿命があります。一度削ればいつか再治療が必要になる時が来るのです。そして、これらの詰め物・被せ物が年月とともに劣化してくると、歯との間に隙間ができ、そこから少しずつ虫歯が進行する場合と、劣化していなくても、詰め物と歯の境にある微妙な段差のせいで磨き残した汚れが、虫歯のもとになる場合とがあるのです。これが「二次う蝕」という大人の虫歯の特徴です。この治療した歯が、もしも神経を抜いてしまった歯であれば、どんなに虫歯が進行しても痛みを感じないし、詰め物や被せ物の見た目に変化がないので、かなり奥まで進行してから初めて気づくということも少なくないのです。

★年齢とともに下がる歯ぐき

大人の場合、歯と歯ぐきの境目も虫歯になりやすい場所です。歯と歯ぐきの間には歯垢がたまりやすいということもありますが、歯周病や加齢によって歯を支える歯肉がやせて歯ぐきが後退することで、歯根が露出します。歯の表面のエナメル質は歯肉に近づくにつれてだんだん薄くなり、歯根部分になると、酸に対する抵抗力の弱い、柔らかい象牙質になるので、よけい虫歯になりやすいのです。

★歯と歯の間も

加齢とともに歯と歯の隣接面が少しずつ摩耗したり、歯周病によって歯と歯の間に隙間ができたりします。そうすると食べ物がつまりやすくなり、その状態が進行すると、爪楊枝や歯間ブラシを使っても食べかすを取り除きにくくなります。これを完全に除去できないと虫歯になるのです。

永久歯は生えかわりません。いつまでも自分の歯とともに生きていくためには早期発見・早期治療が大切ですよ。

